

宝永山山行報告

【山行日】2022年 8月 11(木) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 6,200円

【メンバー】CL:鈴木、SL:関

青柳、飯口、島田、福島、渡辺

【コースタイム】岩舟支所P4:00＝水ヶ塚公園

P6:30/7:00＝富士宮口五合目 7:35/8:00～

六合目 8:20～第一火口底 8:40/8:50～宝永山

9:30/9:50～第一火口底 10:20/10:50～

御殿庭分岐 11:00～双子山分岐 11:10～

御殿庭分岐 11:25～富士宮口五合目 11:45/12:00＝水ヶ塚公園P12:30/12:40＝岩舟支所P15:30

山の日が法制化されて初めて施行された、2016年8月11日に宝永山に初めて登った。

富士山の南面を象徴するのが、江戸期宝永年間の大噴火による大きな爆裂火口だ。その痕跡を辿



る今日のコースは、火山である富士山の自然を存分に楽しめるコースである。東北道から圏央道、東名高速と走り、御殿場ICで降り水ヶ塚公園に着く。前は海老名JCTで大渋滞があったが、今回はスムーズに通過出来、予定より1時間30分早く到着した。広大な駐車場はすでに多くの車が止められ、駐車料金を払い係員の指示に従い車を止める。出発の準備を整えたらトイレを済ませ、シャトルバスの乗車券を購入してバスに乗り込む。水ヶ塚公園からおよ

そ35分で富士宮口五合目に到着し、トイレを済ませストレッチを行ったら出発する。標高2400m

の富士宮登山口から登山道を登って行き、2

軒の山小屋が建つ新六合目で休憩し衣服調

整と水分補給を行う。ここから富士山登山道と

別れ、直進して御中道を進むと第一火口入口

に着く。標識に従って左に進み、宝永第一火口

底に向かって下って行く。大きなすり鉢状の火

口を、火口底に向かって緩やかに下って行く

が、砂礫の斜面にはオンタデの白い花が彩り

を添えている。火口底にはベンチが置かれ、

大勢の登山者が休憩していた。我々も休憩を

取り、徳ちゃんのスイカを美味しくいただいた。大きな火口底からの景色は素晴らしく、ガスも無く天

気が良いので火山独特の光景を十分堪能出来た。



ここから宝永山に向かって300mの登りとなるが、砂礫の登山道は歩きにくく中々ペースが上がらない。登山の基本、小股で静荷重移動の歩きが有効だが、皆さんのペースは上がらなかった。



馬の背の手前から近道を登り、馬の背と宝永山の中間点に登り着く。振り返ると富士山が良く見え、八合目や九合目の山小屋から山頂まではっきりと見えている。緩やかに下って行くと、広い尾根の先端に大きな方向指示盤が置かれた山頂に着く。山頂からは360度の大自然が広がり、駿河湾から富士宮市、越前岳が眼下に望め、後ろには富士山の広大な斜面が山頂まで見渡せる。展望を楽しみながらゼリーや菓子をいただき、独特な火山風景を存分に楽しんだ。記念写真

を撮ったら下山開始し、来た道を馬の背分岐まで戻る。ここが本日の最高点で、標高2720mと宝永山より27m高い。分岐を左に下り、ザレた火山礫の登山道を第一火口底まで下る。火口底に着くとベンチとテーブルが丁度空き、ありがたく座らせていただく。少し時間が早いがランチタイムとし、ランチの準備に取り掛かる。今日のランチは冷たいトコロ蕎麦を用意した。きゅうりの漬物とトコロ蕎麦を美味しくいただき、デザートを食べお茶を飲んだら出発する。我々が腰を上げると男性が来て、「このベンチとテーブルは天皇が皇太子の時に宝永山に登山し、その時に皇太子様の為に作られた由緒あるも



のです。」と言われた。ハハ〜とベンチとテーブルに向かって頭を下げ、この場を後にして第一火口底入口に向かう。入口分岐を左に進みザレザレの急坂を下って、双子山分岐まで行く。ここは第二火口の縁で展望が良い。展望を楽しんだら御殿庭分岐まで登り返し、分岐を左に進んで遊歩道を辿って行く。遊歩道はコメツガの樹林帯を歩くようになり、林床には草花も多く森林限界の境界線の模様を存分に楽しめる。アキノキリンソウやホタルブクロ、イワオトギリ等の



花々を楽しみながら歩くと、新五合目の舗装道に出てそのまま舗装道を進むとシャトルバス乗場に着く。すぐにシャトルバスが出発し、30分バスに揺られると水ヶ塚駐車場に着く。靴を履き替えたらマイカーに乗り換え、岩舟支所に向かって出発する。途中、圏央道の狭山PAに寄ってトイレと買い物を済ませ、渋滞も無く予定より2時間早く岩舟支所に帰着出来た。